

熊本県

鉄軌道、中心市街地活性化に関する
国土施策創発調査連絡会議 資料

熊本市圏における

**鉄軌道、中心市街地の活性化による
公共交通を中心とした地域づくりに関する検討**

熊本県

1. 検討概要

(1) 検討目的

- 熊本市圏は熊本県の経済、行政活動の中心地域として急速に発展し、圏内の人口は増加。
- 市街地の急速な拡大とともに、渋滞の多発、沿道環境の悪化、路線バス利用者の著しい減少、通勤・私用目的で著しく増加した自動車分担率、鉄道の低い利用率といった状況が発生。

↓

- 既存ストックである熊本電鉄の機能強化による活性化方策の効果を検証し、合わせて、熊本市や西合志町における公共交通を中心としたまちづくりの推進を図る。

(2) 検討対象

(3) 検討フロー

- 1. 現況特性の把握**
 - 沿線地域の特性
 - 交通施設の特性
- 2. 電鉄機能強化策の検討**
 - 求められる機能の検討
 - 現地踏査
 - 駅周辺の機能強化策の検討
 - 機能強化策とりまとめ
- 3. 都心結節に関する検討**
 - 交通実態調査
 - ミクロシミュレーションによる検討
- 4. 電鉄の機能強化がまちづくりに及ぼす効果の検討**
 - 西合志町の特性と将来計画
 - 熊本中心市街地が抱える課題
 - 電鉄の機能強化がまちづくりに及ぼす効果の検討

2. 沿線地域の課題

- 沿線地域の人口増加、通勤などを目的とした多くの人々が熊本市に流入してきており、熊本市人口付近の道路では交通量が増加している。
- 沿線地域から熊本市中心部へのアクセス道路では、著しい渋滞が発生。
- 沿線地域から熊本市中心部への移動手段は自動車を中心、代替手段である熊本電鉄や電鉄バスが有効に利用されていない。
- 電鉄の運行不足（20時台が最終電車を）をバス交通が補充するなど、鉄道のメリットが活かしきれていない。

西合志町及び沿線地域の道路交通網と混雑度

主要渋滞ポイント

・都市圏郊外から流入する自動車交通により、熊本市中心部で渋滞が発生。

2. 電鉄機能強化策の検討

機能強化策の体系

地域の交通サービスの向上
(バスフィーダー等)

駅周辺の機能の向上

↓

鉄軌道サービスの強化

↓

利便性の向上・利用者の増加

(1) 沿線地域住民の交通利用状況及び意向

熊本電鉄サービス改善案に対する利用意向
(西合志町、熊本電鉄実施アンケート調査より)

設問時の条件

- 最寄り駅までのバスサービスを向上させる
- 終点の藤崎宮前駅から線路を延伸させ、熊本市電に直接乗り入れる
- 郊外部では高速走行が可能であり、超低床のLRT型システムを導入する

通勤・通学票回答者の利用意向

N=535

サービスが改善されたら熊本電鉄を利用する 34%

他の交通手段を利用する 62%

利用意向 (西合志町)

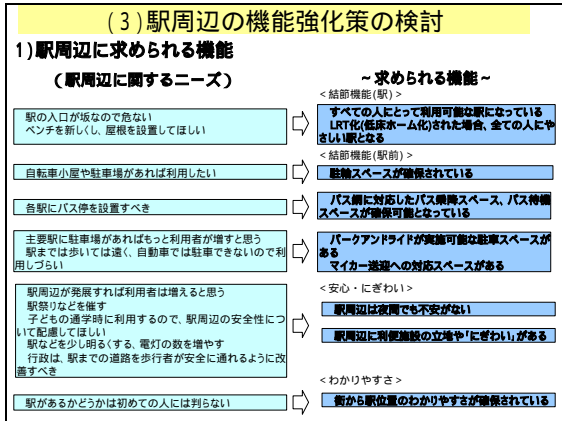
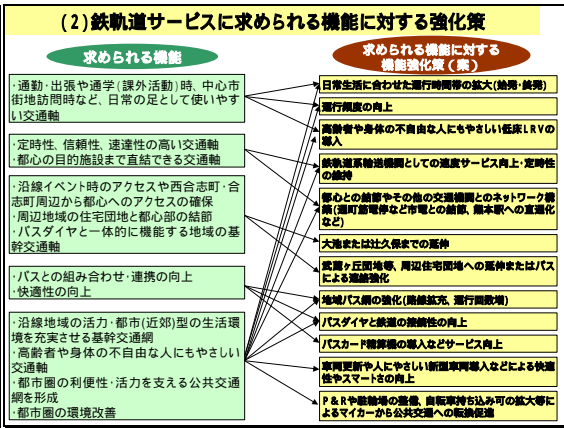
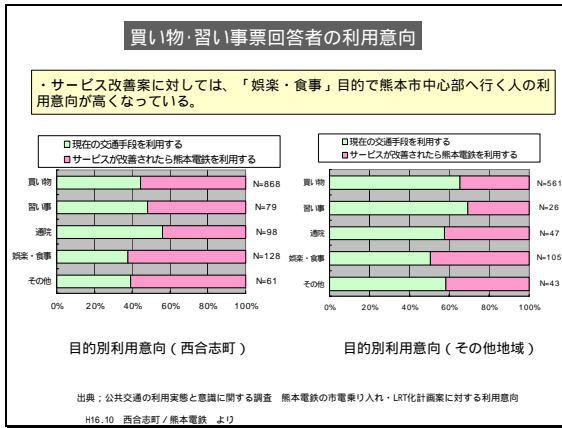
N=312

サービスが改善されたら熊本電鉄を利用する 24%

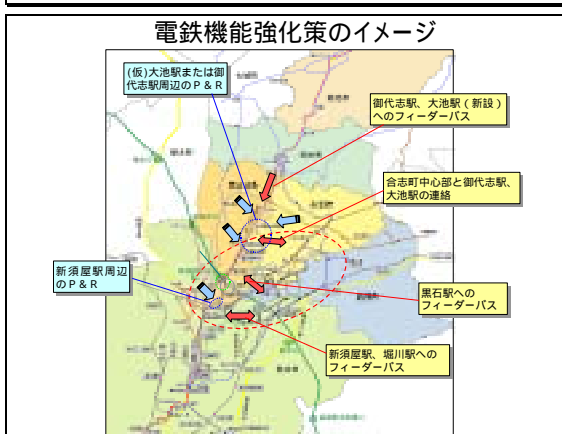
他の交通手段を利用する 76%

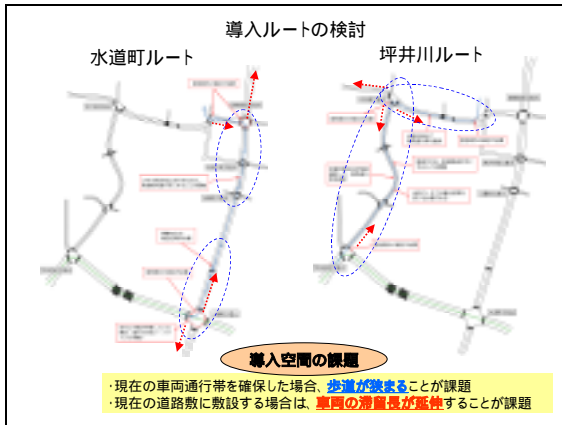
利用意向 (その他地域)

出典：公共交通の利用実態と意向に関する調査 熊本電鉄の市電乗り入れ・LRT化計画案に対する利用意向 H16.10 西合志町/熊本電鉄 より



- #### 3) 駅周辺の機能強化に関する方向性(案)
- 隣接地所有者の協力も得た上でのホームの低床化
 - 道路とホーム間のバリアフリー化
 - 駐輪施設への上層設置などの機能向上
 - 自転車持込可能時間の拡大（LRVに積載する場合は別途検討）
 - フィーダーバスの転回・待機スペースの確保
 - 駅周辺での駐車可能台数の増加を図る
 - 電鉄利用と連動した駐車料金割引策
 - 鉄道の運行時間の延長・運行頻度の向上、利用者の増加策を実施。駅周辺の人通りを増やす
 - ホームや駅周辺道路の照明の増設や、灯籠の明るさ（照度）の向上
 - 駅への案内（道路案内標識、サイン等）の設置
 - 高速バス停や幹線道路バス停、利用者の多い地区等から駅への連絡ルートの整備





4. 電鉄機能強化策がまちづくりに及ぼす効果

熊本中心市街地に与える効果

中心市街地の課題

- 中心市街地の活性化（商品販売額の増加等）に向けては、周辺地域からの来訪、特に、減少傾向にある南北の周辺市町からの来訪が必要。
- 周辺市町からの来訪者増加を図るには、現状の若者の来訪に加え、高齢者の来訪が必要。
- さらに、来訪者の来訪手段では駐車容量の不足等もあり、鉄道や路面電車等の公共交通による来訪者が必要。

電鉄機能強化策による転換者の特性

- 熊本電鉄を利用して、熊本中心市街地へ「買い物」や「娯楽・食事」目的で来訪する人が増加。
- また、現在の熊本電鉄の利用者の約半分が50歳以上であるため、高齢者の私用目的による利用者が増加。

中心市街地に与える効果

- 熊本電鉄での来訪者が増加することで、将来的な期待が膨らむ。
- 高齢者の私用目的の来訪者が増加することによって、熊本中心市街地の商業活性化も期待される。
- 電鉄機能強化策に伴い、来訪者の乗り換え抵抗の削減や、LRT導入による電停の低床化による車両との段差解消など、熊本県が目指すユニバーサルデザインのまちづくりに貢献する。

西合志町及び沿線地域の効果

西合志町及び沿線地域の課題

- 西合志町内での購買力を高める等の地域の魅力向上が必要。
- 依存関係にある熊本市への道路交通のサービス水準は低く、連携強化に向けたアクセス交通や手段等のサービス向上が必要。

電鉄機能強化策による転換者の特性

- 御代志地区や須屋地区で一日の利用者数が増加し、高齢者の「買い物」目的や、学生の「通学」目的の利用者が増加すると期待される。

西合志町及び沿線地域の将来像

- 熊本電鉄と連携した店舗の集積や周辺環境整備を目指している。
- 特に、御代志駅周辺では、駅前商業地区の創出を目指している。

西合志町及び沿線地域の効果

- 熊本電鉄の利用者増に伴い、駅周辺へ人が集まり、熊本電鉄駅と一体となった魅力あるまちづくりに貢献。
- 熊本市へのアクセス手段の一つとなる熊本電鉄の機能強化に伴い、熊本市までのアクセス時間の短縮や、バス交通等の削減による道路交通の混雑緩和など、熊本市との連携強化が期待される。